

今週（11月13日から11月17日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積みの最終週であったものの、着地に目処をつけていた先も多く、落ち着いた地合いで推移した。

当座預金残高が概ね360兆円台半ばで推移する中、無担保コールO/N物は国内勢の調達を中心に▲0.06～▲0.04%のレンジでの出会いが始まった。積み最終日の15日も地合いに大きな変化はなく、無担保コールO/N加重平均レートはほぼ横ばい圏で推移した。新積み期に入った16日も状況は変わらず、3日積みとなった週末の17日も特段の変化は無かった。ターム物に関しては、新積み期スタートのショートターム物を中心に、▲0.04%近辺の出会いが散見された。

固定金利方式の共通担保資金供給オペに関しては、16日に2W物8,000億円がオファーされ、応札額2,389億円(期落ち分1,379億円)と札割れとなった。

●レポ市場

今週のT/N、S/NのGC取引については、週初が積みの最終日にかかったことから調整の調達希望が目立ち、先週末までのような低位のレート水準から上昇し、一時▲0.08%近辺の取引となった。その後、新積み期間となって以降は、運用希望がしっかりととなったが、短国買入オペ減額の影響等から調達ニーズも戻り、▲0.10%近辺での膠着した状況が続いた。GCターム物は、概ね足元レートを反映したレート気配であったが、年末越えの取引では強めのレートの出会いも散見された。

SC取引は甘めの銘柄で概ね▲0.13～▲0.11%程度の取引が中心だった。個別銘柄では、10年債の336、341、342、347、5年126、127、130、131などにビッドが目立った。

●短国市場

今週の短国市場は、週前半こそ動意なく軟調に推移したものの、週後半には年末越えの担保需要や海外勢の買いへの期待が強まり、2回実施された入札が強い結果となるなど、強含みの展開となった。

新発の入札は15日に1Y物、16日に3M物が実施された。1Y物は、前日までの軟調地合いから、レートの上昇も予想されたものの、WI取引において▲0.20～▲0.19%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.2145%、按分落札利回▲0.1936%と強い結果になった。セカンダリーでは、▲0.215～▲0.21%で出合った。3M物は、WI取引において▲0.23%から▲0.25%まで買い進まれる展開となり、平均落札利回▲0.2382%、按分落札利回▲0.2270%と、WI取引を反映した強い結果となった。セカンダリーでは、▲0.249～▲0.24%での出会いと、小高く推移した。

17日に実施された短国買入オペは、予想上限の5,000億円でオファーされた。オファー額が前回から増額され、平均落札利回り較差▲0.006%、按分落札利回り較差▲0.008%としっかりした結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、4,400億円程度の償還総額に対して、6,400億円程度の発行総額となり、鉄鋼・ゴム・不動産・化学等からまとまった発行が見られた。市場残高は、事業法人の旺盛なCP活用ニーズを反映し、14日に16兆円台となった。発行レートは、CP買入オペへの期待感の剥落に伴って、発行残高の多い銘柄や大口の発行案件では概ね0%付近での決着が中心となっている。一方で、キャッシュ潰しと見られる玉確保ニーズから、発行残高の少ない希少銘柄を中心に、一部では▲0.005～▲0.003%の水準での発行も見られた。

CP等買入オペは、16日に前回と同額の2,000億円でオファーされ、結果は平均落札レート0.001%、按分落札レート▲0.001%となった。前回(平均0.000%按分▲0.001%)から平均落札レートは僅かに上昇、按分落札レートは横ばいの結果となり、発行残高の多い銘柄を中心にディーラーの売却ニーズは底堅いものと思われる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均(円)	新発10年物 国債利回り(%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/13(月)	22,380.99	0.045	113.66	△0.048	△0.093	3,669,100
11/14(火)	22,380.01	0.045	113.65	△0.048	△0.082	3,676,100
11/15(水)	22,028.32	0.040	113.46	△0.045	△0.095	3,673,200
11/16(木)	22,351.12	0.040	113.03	△0.046	△0.100	3,645,500
11/17(金)	22,396.80	0.030	112.94	△0.048	△0.101	3,653,600

来週（11月20日から11月24日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
11/20 (月)	10月の貿易統計(財務省 8:50)			
11/21 (火)		流動性供給 5,500億円 11/24発行	交付税借入 10,500億円 11/30借入	10月の米中古住宅販売
11/22 (水)		TB3M 44,000億円 11/27発行		10月の米耐久財新規受注
11/23 (木)	勤労感謝の日			New York祝日(Thanksgiving Day) 7-9月期の英GDP改定値
11/24 (金)	9月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)			

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/20 (月)	100	▲ 28,200	▲ 28,100	全店共通 CP買入 ETF買入	▲ 1,400 ▲ 500	2,400 100	600	▲ 27,500	TB3M発行▲44000償還40700 TB1Y発行▲23000償還7000 20Y発行▲10000 変動15Y償還5200 エネルギー対策借入▲5000期日5500
11/21 (火)	0	1,000	1,000	CP買入 国債買入 短国買入		2,000 8,500 5,000	15,500	16,500	
11/22 (水)	▲ 2,000	1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
11/23 (木)	勤労感謝の日								
11/24 (金)	▲ 2,000	▲ 6,000	▲ 8,000				0	▲ 8,000	流動性供給▲5500 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 3,900	▲ 32,200	▲ 36,100	—	▲ 1,900	18,000	16,100	▲ 20,000	

11/20は日銀予想、11/21以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、20日にTB3M物と1Y物の発行があり、大幅な不足日となる見込み。無担保コールO/N加重平均レートは、積み期間の序盤であることから、▲0.04%台半ばの横ばい圏での推移が続くものと予想される。

レポ市場は、概ね▲0.10%前後での取引が続くものと予想されるが、短国の需給要因等によっては、レートが上下する可能性も考えられる。

短国市場は、22日に3M物の入札が実施予定となっている。引き続き短国買入オペや海外需要の動向が注目される。

CP市場は、年末の資金需要期を控えて、事業法人の発行ニーズが高まる時期であり、発行市場の動向が注目される。

主要なイベントとしては、22日のFOMC議事要旨の公表、23日のECB理事会議事要旨の公表などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によりリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。